

# 最上川フットパス ～かわからまちへ、まちからかわへ～

## 1 社会資本の概要

長井市は、最上川、置賜白川、置賜野川の3河川に囲まれた「水のまち」であり、かつては「最上川舟運」の港町として栄えた商業都市で、日本海に面した酒田港から米沢藩へと物資を運んだ舟運ルートの終着港でした。現在でもまちなかには当時の水路網が形成されており、舟運で栄えた商家跡が多数現存するなど、最上川との関わりが今も色濃く残され



四季折々の花が咲き誇る最上川フットパス沿い

ているまちとなっています。

最上川フットパスは、四季折々に姿を変える美しい周囲の自然と調和するよう土系の舗装で整備されており、河川沿いの自然とまちなかの舟運の歴史や文化を繋ぐ”昔からあるありのままの風景を楽しむ小道”として市民や観光客に親しまれています。



舟運時代の歴史を偲ぶ最上川舟運記念碑

## 2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

長井市では、数多く存在する観光資源や舟運時代の歴史や文化、自然豊かな川など「水のまち」としてのメリットを活かすために、かわとまちを繋ぐ動線の整備を行い、利活用することにより観光を通じた利用促進を目指しています。

利活用の活動として、まちなかと河川を繋ぐルートを検討し、現地踏査やワークショップを行い、フットパスマップを作成しました。

また、平成24年から「ながいフットパスウォーク」



地域住民によるフットパスマップ検討の様子

を開催し、今年で5年目を迎えます。当初は市民向けの周知を目的とし開催してきましたが、回を重ねるごとにリピーターや市外の観光客の参加も増えており、市内の観光利用者や河川利用者の増加に寄与しています。

また、さらなる利活用を図るため、まちとかわを繋ぐフットパスの拠点として、観光交流センター「川のみなと長井」を整備中であり、観光交流人口の拡大や地域への経済波及効果が期待されています。



観光交流センター「川のみなと長井」完成イメージ



山形県長井市

長井市かわまちづくり推進協議会／長井市

### 3 活動の成果や波及効果等

「ながいフットパスウォーク」の開催により、河川沿いのフットパスの認知度が上がり、平成15年に31,800人であった河川利用者が平成26年には57,200人と大幅に増加しました。

また、川沿いだけでなく市内各地でも開催しているため、それぞれの地域の魅力を引き出す一助となっています。



イベント参加者を楽しませる渡河施設



まちなか水路沿いのフットパス

### 喜びの声



#### 受賞者

長井市かわまちづくり推進協議会  
会長 菅野 昭浩

#### コメント

この度は思いがけなく、手づくり郷土賞という栄えある賞を頂き誠にありがとうございます。活動を通じて、私たちの住むまちを大切に、誇りを持つことが大事だと実感することが出来ました。今後も「水のまち長井」の魅力を発信していきたいと思っています。

#### 活動内容

かわとまちをつなぐまちづくり活動、フットパスルートの検討、マップの作成

#### 活動の経緯

平成21年 協議会設立  
平成24年 ながいフットパスウォーク開催

手づくり郷土賞について

公開審査会について

講評

大賞部門

一般部門

資料集

#### 所在地

山形県長井市小出地内 最上川左岸河川敷

#### 活動主体及び連絡先

長井市かわまちづくり推進協議会  
※会長：菅野 昭浩 (0238-87-0863)

#### 対象となる社会資本

最上川フットパス  
※管理者：山形県長井市

